

1 次の各問に答えよ.

(1) 行列 A の固有ベクトルとはどういうベクトルか説明しなさい (定義を述べなさい). (5 点)

- 行列 A に対し, t に関する方程式 $\det(tI_n - A) = 0$ の解を固有値といい, 固有値 λ に対し, 方程式 $(\lambda I_n - A)\mathbf{x} = \mathbf{0}$ の非自明解を λ に属する固有ベクトルという.
- ある数 λ に対して $A\mathbf{v} = \lambda\mathbf{v}$ を満たす $\mathbf{0}$ でないベクトル \mathbf{v} を A の固有ベクトルという.

(2) 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 6 & 0 \\ -1 & 0 & 0 \\ 1 & 2 & 2 \end{pmatrix}$ の固有ベクトルを次の (ア) ~ (エ) の中からすべて選びなさい. (10 点)

(ア) $\begin{pmatrix} 0 \\ 3 \\ 1 \end{pmatrix}$ (イ) $\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix}$ (ウ) $\begin{pmatrix} -2 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ (エ) $\begin{pmatrix} -3 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$

各ベクトルに A をかけて元のベクトルに定数倍になっているか調べればよい. (ウ) は固有値 2 に属する固有ベクトル, (エ) は固有値 3 に属する固有ベクトルである. (ア) と (イ) は固有ベクトルではない.

2 $A = \begin{pmatrix} 7 & -6 \\ 3 & -2 \end{pmatrix}$ に対して次の各問に答えなさい.

(1) A の固有値を求めなさい. (5 点)

1 と 4.

(2) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような正則行列 P を求めなさい. (10 点)

固有値 1 の固有ベクトルが $c \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$, 固有値 4 の固有ベクトルが $c \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ であるから,

たとえば, $P = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$ とおくと $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 4 \end{pmatrix}$.

(3) (2) の結果を用いて以下の連立微分方程式の解を求めなさい. ただし, 初期値は $f(0) = 1, g(0) = -1$ とする. (10 点)

$$\begin{cases} f'(x) = 7f(x) - 6g(x) \\ g'(x) = 3f(x) - 2g(x) \end{cases}$$

$\mathbf{F}(x) = {}^t(f(x), g(x))$ とおくと上の連立微分方程式は $\mathbf{F}'(x) = A\mathbf{F}(x)$ と書ける. (2) の結果から $(P^{-1}\mathbf{F}(x))' = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 4 \end{pmatrix} (P^{-1}\mathbf{F}(x))$ であるから, $P^{-1}\mathbf{F}(x) = \begin{pmatrix} c_1 e^x \\ c_2 e^{4x} \end{pmatrix}$. つまり

$\mathbf{F}(x) = \begin{pmatrix} f(x) \\ g(x) \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} c_1 e^x \\ c_2 e^{4x} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} c_1 e^x + 2c_2 e^{4x} \\ c_1 e^x + c_2 e^{4x} \end{pmatrix}$. 初期値の条件から, $1 = f(0) = c_1 + 2c_2$, $-1 = g(0) = c_1 + c_2$. これを満たすのは $c_1 = -3, c_2 = 2$ のときである. したがって, 解は $f(x) = -3e^x + 4e^{4x}, g(x) = -3e^x + 2e^{4x}$.

3 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & -2 \\ 1 & 2 & 2 \\ -2 & 2 & -1 \end{pmatrix}$ について, 次の各問に答えなさい.

(1) A の固有値を求めなさい. (5 点)

固有値は -3 と 3 .

(2) 各固有値に関する固有空間を求めなさい. (5 点)

固有値 λ に関する固有空間を V_λ と書くことにすると,

$$V_{-3} = \left\{ c \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix} \mid c \in \mathbf{R} \right\}, \quad V_3 = \left\{ c_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + c_2 \begin{pmatrix} -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \mid c_1, c_2 \in \mathbf{R} \right\}.$$

(3) 各固有空間の正規直交基底を求めなさい. (10 点)

例えば V_{-3} については $\left\{ \begin{pmatrix} 1/\sqrt{6} \\ -1/\sqrt{6} \\ 2/\sqrt{6} \end{pmatrix} \right\}$, V_3 については $\left\{ \begin{pmatrix} 1/\sqrt{2} \\ 1/\sqrt{2} \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -1/\sqrt{3} \\ 1/\sqrt{3} \\ 1/\sqrt{3} \end{pmatrix} \right\}$.

(4) tPAP が対角行列になるような直交行列 P を求めなさい. (10 点)

例えば $P = \begin{pmatrix} 1/\sqrt{6} & 1/\sqrt{2} & -1/\sqrt{3} \\ -1/\sqrt{6} & 1/\sqrt{2} & 1/\sqrt{3} \\ 2/\sqrt{6} & 0 & 1/\sqrt{3} \end{pmatrix}$ とすると ${}^tPAP = \begin{pmatrix} -3 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$.

4 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & -1 \\ 4 & k & 5 \\ -2 & -2 & -1 \end{pmatrix}$ の固有値のひとつが 3 となるような k の条件を求めなさい. (20 点)

A の固有値とは $\Phi_A(t) := \det(tI_n - A) = 0$ の解であるから, A が固有値 3 を持つならば, $\Phi_A(3) = 0$ となる. ここで

$$\begin{aligned} \det(3I_3 - A) &= \det \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ -4 & 3-k & -5 \\ 2 & 2 & 4 \end{pmatrix} = \det \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 0 & 5-k & -3 \\ 0 & 1 & 3 \end{pmatrix} \\ &= \det \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 0 & 6-k & 0 \\ 0 & 1 & 3 \end{pmatrix} = 6(6-k). \end{aligned}$$

であるから, $\Phi_A(3) = 0$ となるのは $k = 6$ のときである.

5 (10 点)